

輝いている人を紹介します

まちのキラリ

梁川交響吹奏楽団

サクソ奏者

福地利男 さん (梁川地域)

設立から40周年を迎えた梁川交響吹奏楽団。設立時のメンバーとして現在も活躍している福地利男さん。音楽、楽器が大好きな福地さんに、楽団の歩みや吹奏楽の魅力を伺った。



梁川交響吹奏楽団の設立へ

梁川交響吹奏楽団（以下楽団）は、梁川中学校の後輩たちが自分たちの団体を作りたいと私たちの年代に話を持ちかけ、同級生が団長となって、吹奏楽部の顧問だった板垣忠直先生に指導をお願いして楽団を設立しました。私も声をかけてもらい、当初からメンバーとして加わりました。後輩たちは、梁川中学校吹奏楽部の黄金期のメンバーたちなので、若い頃はついていくのがやっとでした（笑）。

心に残る周年事業

楽団は設立から今年で40周年を迎えます。たくさんの心に残る出来事がありました。特に周年事業は印象的です。10周年



Profile ●ふくち としお

1963年生まれ。兄に影響を受け、梁川中学校では吹奏楽部に入部。中学校ではサクソ、高校ではトランペットやトロンボーンを担当。梁川交響吹奏楽団の設立時のメンバーとして、現在も活躍している。楽団では中学校時に担当していたサクソを担当。音楽、楽器が大好きで、楽団の40年間の活動を通して地域に音楽と元気を届け続けている。

の時は、演奏旅行としてオーストラリアへ行ったのはいい思い出です。特に20周年は心に残っています。その当時は事務局長として周年事業を担当し、CDや記念誌を制作。また、レセプションを開催しました。表に立つような人間じゃない私が、若いメンバーやOBに支えられ、何とかやり遂げることができた喜びは今も忘れられません。

これからも演奏し続けたい

設立時から関わってきたこの楽団に愛着を持っています。でも、いつの間にか古株となってしまったので、昔のイメージなどで押し付けるのではなく、相談を受けた時にアドバイスをするのが役割かなと思っています。今も昔も良い音楽をやっています。

いきたいという向上心は変わらないですが、昔のような音楽しかない楽団ではなく、いろいろな趣味趣向があつて、多様性を持った考え方に変わってきたように感じます。

音楽を聴くのも好きだけど、楽器を演奏している時が楽しいです。楽器は持っているけど安心しますし、心のオアシスのような存在です。ローカルバンドですが、「いつも楽しみにしています」と言ってくれる人もいます。いつまで続けられるかわからないですが、その言葉を励みにできる限り続けていきたいです。そして音楽を知らない人でもほっとするような心の安らぎを届けていきたいと思っています。



練習で素敵な音色を奏でる福地さん。楽団の練習は毎週土曜日に行っている。